

# 東久留米 タルキプロジェクト

## 農・本・人を地域経済でつむぐDIYによる点的拠点群

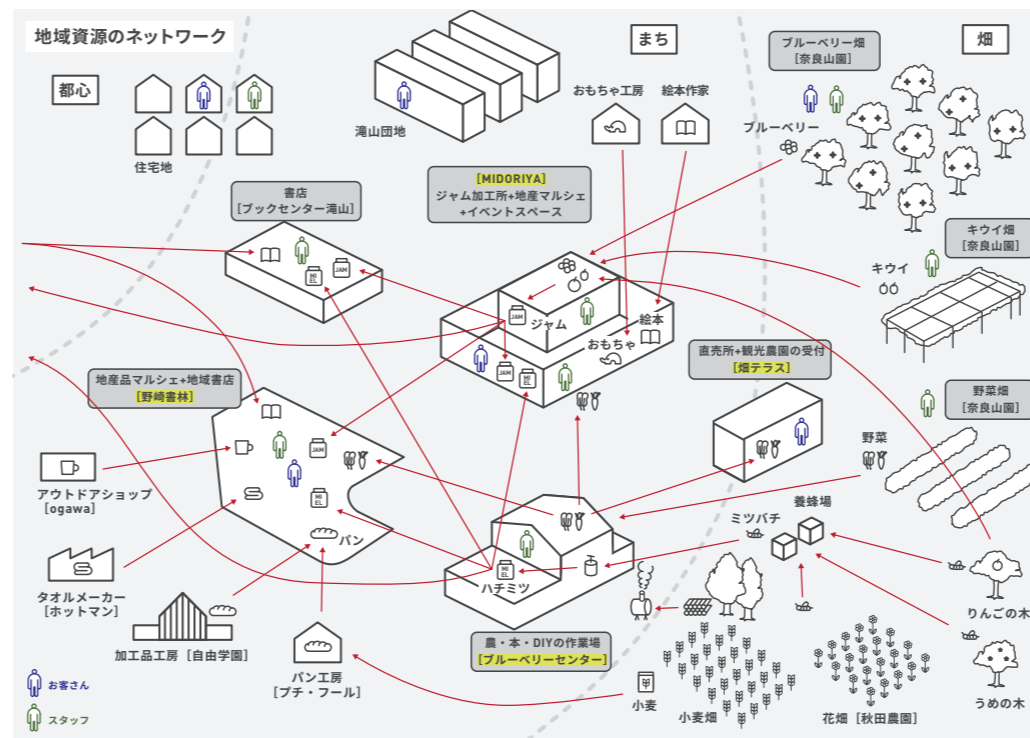
東久留米の地は江戸時代に100万都市を支える農産地として栄えたが、戦後に集約された農地と農業経営体による生産体制が解体されて、高度経済成長期には住宅開発により人口が爆発的に増加した。現在は大規模団地を中心に世帯が高齢化し、小さな生産緑地まじりの郊外住宅地となっている。

国内を見渡せば宅地化なかばの農地はいくらでもある。それは近代資本主義が後押しする都市化推進と前近代の地域主義がこらえようとする農業保護の板挟みの姿である。為政者やプランナーは近代化から取り残されたスプロール都市とみるかもしれないが、昔からの住民からすれば大きな経済と政治に振り回されてきた歴史である。余所者に残念がられるのは余計なお世話であり、住民たちは農地と生業と人を資源として生きる道筋を自ら組み立てる。

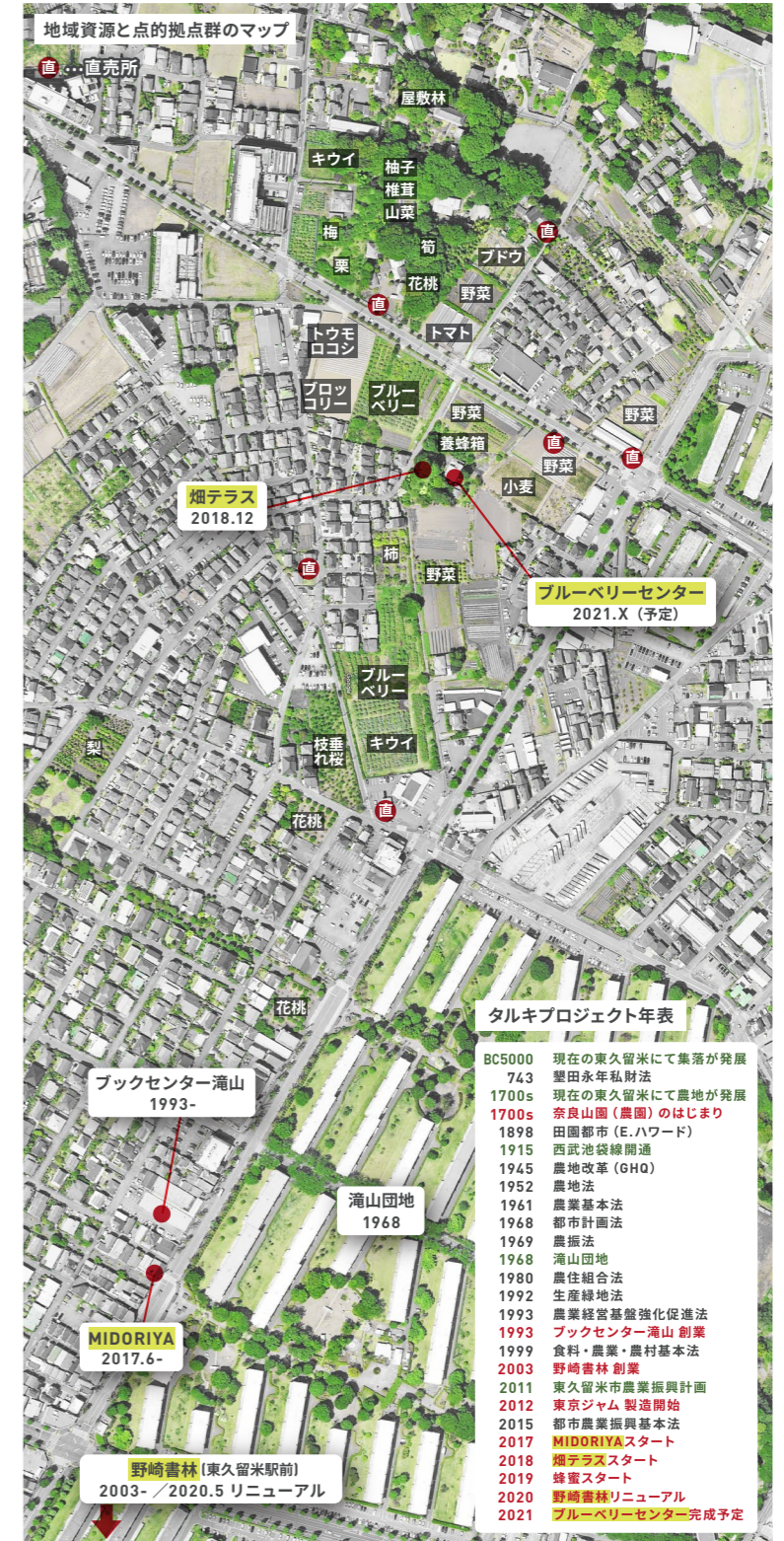
農家と書店を兼業するある一家は、地域の小規模で多様な作付けの農地・自ら経営する書店・地域住民を資源と見立てて、これらの資源を再編成するための点的拠点をDIYで作って、日々運営している。拠点のベースは団地の向かいの空き店舗・農地に囲まれる土地と空き家・駅前のテナント書店であり、これらを調達・加工が簡単な30×40mmのタルキを使って新たな拠点に作り変える。

これらの拠点は地域の農産物・書籍・働く人を受け入れる。農産物はスーパーに流れずに新鮮なうちに地産地消され、書籍は出版取次に左右されずに自らが選書を行い、働く人は暮らしを大事にしながらフルタイム労働を求められること無く書店と畑を行き来して柔軟に働く。

これは大資本や近代資本主義によらず、地域経済によって生きる空間をつむいでいることの一例である。

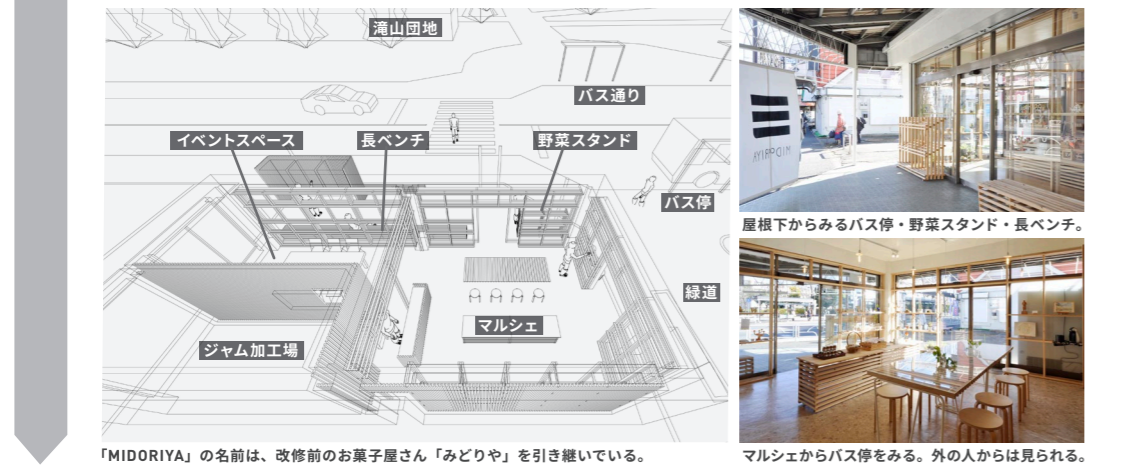


ブルーベリーセンターから畑テラス・ブルーベリー畑・住宅地をのぞむ



### Phase 1 2017.6 ジャム加工所 + マルシェ + イベントスペース「MIDORIYA」

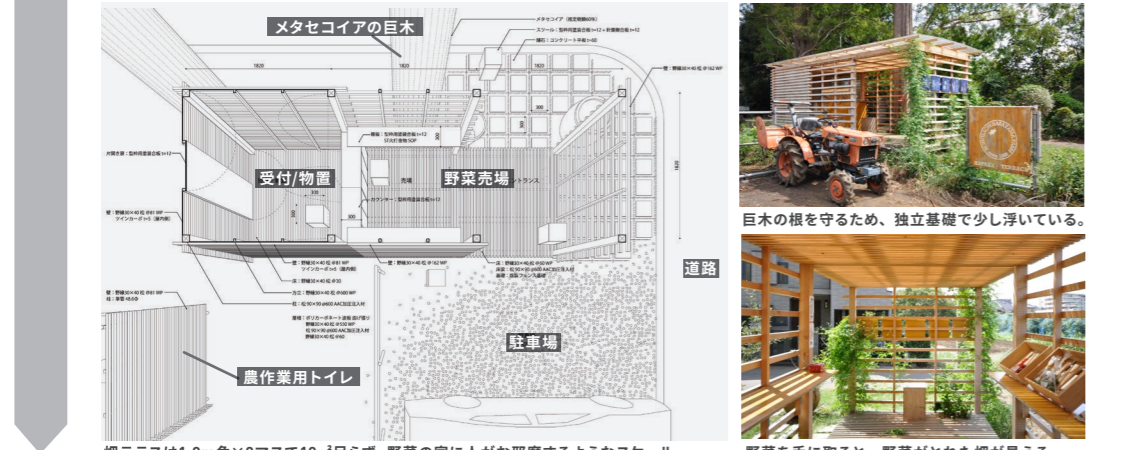
地域の果実を使った「東京ジャム」の加工場、地産品を販売するマルシェ、地域団体が使うイベントスペースからなる70㎡のスペース。数件隣のグループ書店「ブックセンター滝山」と連携する。団地とともにできたRC 平屋店舗をベースとして、団地やバス停との見られる関係をもつ店舗に作り変えた。大きな屋根の下には長ベンチと野菜スタンドがあり、バスを待つ人が座ったり、朝どれ野菜を品定めする人がやって来る。



「MIDORIYA」の名前は、改修前のお菓子屋さん「みどりや」を引き継いでいる。マルシェからバス停をみる。外の人からは見られる。

### Phase 2 2018.12 直売所 + 観光農園の受付「畑テラス」

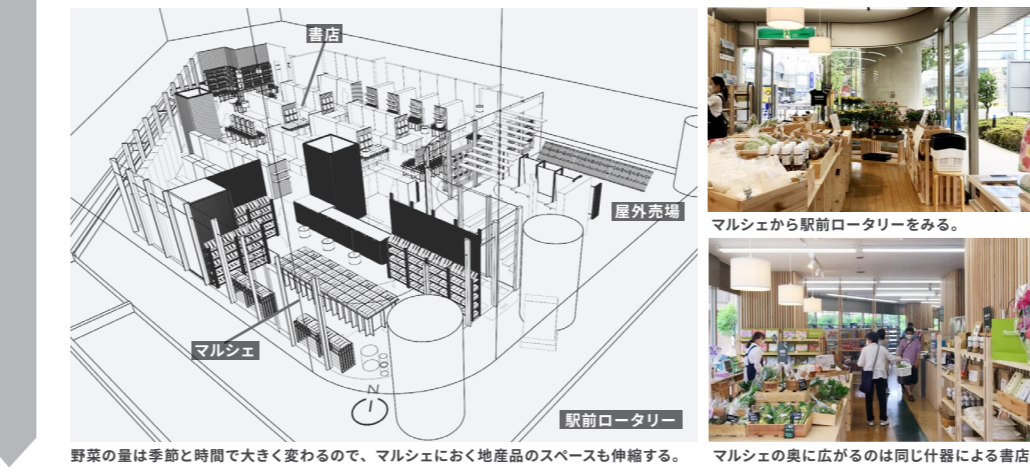
周辺で収穫した農産物を販売する無人直売所。観光農園のブルーベリー摘み取りシーズンには受付となる。すぐ隣にはブルーベリーセンター・農作業小屋・畑・養蜂場があり、これらの農地の資源と住宅地をつなぐ結節点となる。保存樹木のメタセコイアの巨木の下にささやかに佇む地域のアイコンとした。タルキのルーバーは野菜に日陰をつくるとともに、耐力壁としてはたかかせている。



畑テラスは1.8m角×3マスで10㎡足らず。野菜の家に人がお邪魔するようなスケール。野菜を手にとると、野菜がとれた畑が見える。

### Phase 3 2020.5 地産品マルシェ + 地域書店「野崎書林」

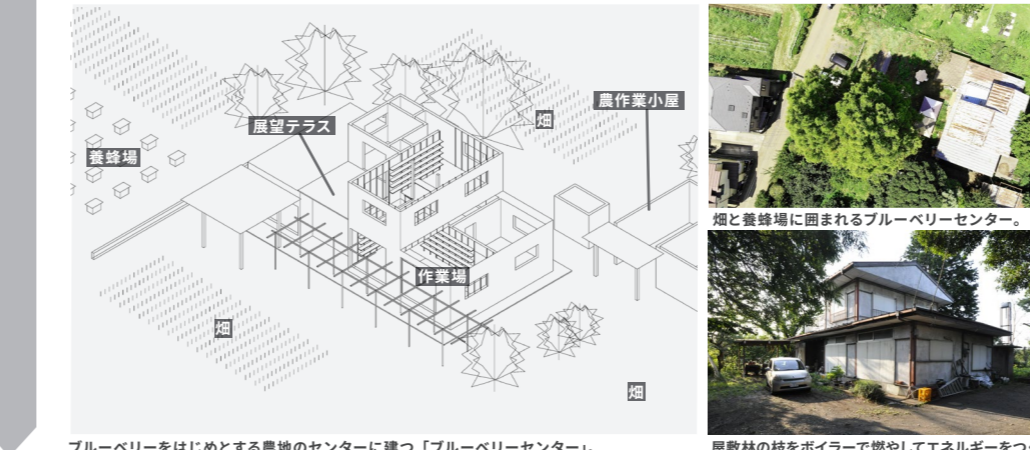
300㎡の駅前既存書店のリニューアル。元はすべて書棚であったところを一部面積をあげ、多摩・西東京・東久留米の地産品や、近隣の農家からくる農産物を販売するマルシェとした。テナントとしてできる工法で既存の柱型・書棚・床にタルキ什器を設置し、本と野菜などを同じように陳列した。DIY施工はコロナ休業の合間を縫って実施。本と野菜の複合店舗はあまり前例が無いが、東久留米ではなぜかじっくり感じてしまう。



野菜の量は季節と時間で大きく変わるので、マルシェにおく地産品のスペースも伸縮する。マルシェの奥に広がるのは同じ什器による書店。

### Phase 4 2021.X 農・本・DIYの作業場「ブルーベリーセンター」

周辺農地でとれる農産物の洗浄・選別・梱包、書店から出荷する本の仕分け、DIY加工を行うための作業場。空き家をベースとして、2階の床を抜き、タルキ什器を造り付けて作業場を拡充することで、農園のための食品加工場・宿泊所・展望テラスにしていける予定。2階から見渡せるのは農業資源である畑や住宅地の織り混ざった風景であり、生活が依拠するところが一目瞭然である。



ブルーベリーをはじめとする農地のセンターに建つ「ブルーベリーセンター」。屋敷林の枝をボイラーで燃やしてエネルギーをつくる。

BC5000	現在の東久留米にて集落が発展
743	聖田永年私財法
1700s	現在の東久留米にて農地が発展
1700s	奈良山園(農園)のはじまり
1898	田園都市(E.ハワード)
1915	西武池袋線開通
1945	農地改革(GHQ)
1952	農地法
1961	農業基本法
1968	都市計画法
1969	農振法
1968	滝山団地
1980	農住組合法
1992	生産緑地法
1993	農業経営基盤強化促進法
1993	ブックセンター滝山創業
1999	食料・農業・農村基本法
2003	野崎書林創業
2011	東久留米市農業振興計画
2012	東京ジャム製造開始
2015	都市農業振興基本法
2017	MIDORIYAスタート
2018	畑テラススタート
2019	蜂蜜スタート
2020	野崎書林リニューアル
2021	ブルーベリーセンター完成予定